

表 2 食品化学項目別検査件数

昭和57年度

区 分	検 査 項 目	総 数	行政依頼	そ の 他 行政依頼	一般依頼
乳及び乳製品 (規格)	比重	80	22	18	40
	酸度	92	24	26	42
	乳脂肪分	93	23	22	48
	乳固形分	14	5	-	9
	無脂乳固形分	103	31	18	54
	小 計	382	105	84	193
清涼飲料水 (規格)	鉛, 銅, ヒ素等の限度試験	147	136	-	11
食品添加物	ソ ル ビ ン 酸	304	202	14	88
	安 息 香 酸	-	-	-	-
	ペ ラ オ キ シ 安 息 香 酸	11	9	-	2
	合 成 着 色 料	162	128	5	29
	天 然 着 色 料	72	72	-	-
	ニ コ チ ン 酸	20	20	-	-
	縮 合 リ ン 酸	7	-	3	4
	サ ッ カ リ ン ナ ト リ ウ ム	8	-	-	8
	亜 硝 酸	76	59	10	7
	亜 硫 酸	82	55	-	27
	過 酸 化 水 素	-	-	-	-
	ブチルヒドロキシアニソール (BHA)	59	40	3	16
	ジブチルヒドロキシトルエン (BHT)	19	-	1	18
	臭 素 酸 カ リ ウ ム	6	-	-	6
	プ ロ ピ レ ン グ リ コ ー ル	134	116	-	18
そ の 他	2	-	1	1	
	小 計	962	701	37	224
金 属 農薬・PCB	ヒ素, 鉛, スズ, 銅, カドミウム	54	7	1	46
	塩 素 系 (18 項目)	443	262	172	9
	リ ン 系 (11 項目)	190	108	82	-
	カ ル バ リ ル	22	10	12	-
	金 属 (As, Pb)	32	20	12	-
	有 機 ス ズ	2	-	2	-
	P C B	8	-	-	8
	そ の 他	11	-	2	9
	小 計	708	400	282	26
合成抗菌剤	ク ロ ビ ド ー ル	-	-	-	-
	ア ン プ ロ リ ウ ム	-	-	-	-
	ゾ ー リ ン	-	-	-	-
	そ の 他	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-

区 分	検 査 項 目	総 数	行政依頼	その 他 行政依頼	一般依頼	
異 物 器具・容器装 包(規 格)	ダ ニ 等	-	-	-	-	
	材 質 試 験	Cd, Pb, Ba 塩 化 ビ ニ リ デ ン	11	-	-	11
		塩 化 ビ ニ ル	-	-	-	-
		ジブチルスズ化合物	-	-	-	-
		クレゾールリン酸エステル	-	-	-	-
		揮 発 性 物 質	-	-	-	-
	溶 出 試 験	フ ェ ノ ー ル	7	-	-	7
		ホルムアルデヒド	9	-	-	9
		重 金 属	13	-	-	13
		ア ン チ モ ン	-	-	-	-
ゲ ル マ ニ ウ ム		-	-	-	-	
蒸 発 残 留 物 質		11	-	-	11	
	KMnO ₄ 消 費 量	12	-	-	12	
	小 計	63	-	-	63	
製 品 検 査	か ん す い	-	-	-	-	
	カ タ ー ル 色 素 製 剤	-	-	-	-	
栄 養 分 析	粗 タ ン パ ク	164	-	86	78	
	粗 脂 肪	156	1	86	69	
	粗 織 維	-	-	-	-	
	灰 分	154	-	86	68	
	水 分	249	78	86	85	
	で ん ぶ ん	5	-	-	5	
	ビ タ ミ ン B ₁ , B ₂ , C	13	-	-	13	
	乳 糖 ・ 還 元 糖	2	-	-	2	
	Ca, P, Na, K, Fe	38	1	3	34	
	そ の 他	3	-	-	3	
	小 計	784	80	347	357	
そ の 他	酸 価	30	27	-	3	
	過 酸 化 物 価	30	27	-	3	
	揮 発 性 塩 基 窒 素	21	20	-	1	
	ヒ ス タ ミ ン	1	-	-	1	
	蛍 光 染 料	5	-	-	5	
	シ ア ン 定 量	11	11	-	-	
	陰 イ オ ン 界 面 活 性 剤	78	-	78	-	
	そ の 他	9	2	-	7	
	小 計	185	87	78	20	
総 数		3,285	1,516	829	940	

表 3 主な食品添加物の

名称	食品名	件数 (違反)	検出数 (検出率)	検出量 (平均)	総平均	使用基準
ソ ル ビ ン 酸	魚肉ねり製品	45 (0)	31 (69%)	0.23 ~ 1.8 g/kg (1.3 g/kg)	0.89 g/kg	2.0 g/kg以下
	食肉製品	39 (0)	19 (49%)	0.04 ~ 1.8 g/kg (1.0 g/kg)	0.49 g/kg	2.0 g/kg以下
	いかくん製品 たこくん製品	28 (0)	25 (89%)	0.08 ~ 1.0 g/kg (0.43 g/kg)	0.38 g/kg	1.5 g/kg以下
	魚介乾製品	10 (0)	3 (30%)	0.17 ~ 0.45 g/kg (0.27 g/kg)	0.08 g/kg	1.0 g/kg以下
	煮 豆	11 (3)	6 (54%)	0.13 ~ 2.2 g/kg (0.89 g/kg)	0.49 g/kg	1.0 g/kg以下
	佃 煮	23 (0)	20 (87%)	0.08 ~ 0.80 g/kg (0.36 g/kg)	0.32 g/kg	1.0 g/kg以下
	許 つけもの 可 酢づけ	34 (0) 4 (0)	18 (53%) 1 (25%)	0.06 ~ 0.85 g/kg (0.42 g/kg) 0.18 g/kg (0.18 g/kg)	0.22 g/kg 0.04 g/kg	1.0 g/kg以下 0.50g/kg以下
	そうざい	8 (1)	1 (12%)	0.08 g/kg (0.08 g/kg)	0.01 g/kg	使用禁止
	総 数	202 (4)	124 (61%)			
プ ロ ピ レ ン グ リ コ ール	ラーメン	58 (2)	46 (79%)	0.3 ~ 2.6% (1.4%)	1.1%	2% 以下
	生めん	20 (0)	11 (55%)	0.7 ~ 1.6% (1.1%)	0.6%	2% 以下
	いかくん製品	15 (0)	0 -			2% 以下
	魚介乾製品	23 (0)	0 -			0.6%以下
	総 数	116 (2)	57 (49%)			
亜 硝 酸	食肉製品	40 (0)	36 (90%)	0.0004~0.034 g/kg(0.014g/kg)	0.013 g/kg	0.07 g/kg 以下
	魚肉ハム ソーセージ	1 (0)	0 -			0.05 g/kg 以下
	筋 子	9 (0)	9 (100%)	0.0009~0.0026g/kg(0.0017g/kg)	0.0017 g/kg	0.005 g/kg 以下
	助 子	9 (0)	5 (56%)	0.0006~0.0009g/kg(0.0008g/kg)	0.0004 g/kg	※
	総 数	59 (0)	50 (85%)			

※ 0.001 g/kg 以下(天然根), 0.001 ~ 0.003 g/kg が調査対象。

検査状況（収去検査）

昭和57年度

名称	食品名	件数 (違反)	検出数 (検出率)	検出量 (平均)	総平均	使用基準
亜 流 酸	野菜(生)	15 (1)	1 (6.7%)	0.002 g/kg (0.002 g/kg)	0.0001 g/kg	使用禁止
	野菜浸出液	1 (0)	0			使用禁止
	つけもの	39 (1)	17 (44%)	0.001~0.048 g/kg (0.008 g/kg)	0.004 g/kg	0.03 g/kg未滿
	総数	55 (1)	17 (31%)			

名称	食品名	検体数	検出数 (検出率)	Y-5	Y-4	B-1	R-106	R-102	R-3
合 成 着 色 料	漬物	52	37 (71%)	6	8	1	9	3	0
	佃煮	24	8 (33%)	3	0	0	2	1	2
	煮豆	17	6 (35%)	1	2	1	1	1	0
	鮮魚介類 (鯨肉を含む)	14	0 (0%)	0	0	0	0	0	0
	食肉	6	0 (0%)	0	0	0	0	0	0
	清涼飲料水	6	6 (100%)	2	2	0	0	2	0
	そうざい	4	0 (0%)	0	0	0	0	0	0
	その他	5	5 (100%)	1	2	1	0	1	0
総数	128	62 (48%)	13	24	3	12	8	2	

名称	食品名	検体数	検出検体数 (検出率)	β ー カ ロ チ ン	パ プ リ カ 色 素	ウ コ ン 色 素	ア ナ ト ー 色 素	ク ロ フ ィ ル 色 素	ニ ン ジ ン 色 素	ク チ ナ シ 黄 色 素	リ ボ フ ラ ビ ン	コ ー シ ン 色 素	赤 キ ャ ベ ツ 色 素	ブ ド ウ 果 汁 色 素	ビ ー ト レ ッ ト	コ チ ニ ール 色 素	ラ ック 色 素	紅 ご う じ 色 素	ベ ニ バ ナ 黄 色 素	水 溶 性 ア ナ ト ー	カ ラ メ ル
天 然 着 色 料	清涼飲料水	32	18 (56%)	11	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	2
	菓子	29	29 (100%)	2	4	0	2	1	1	2	0	5	1	2	4	3	0	1	1	0	0
	アイスクリーム類	7	7 (100%)	1	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	氷菓子	4	4 (100%)	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	総数	72	58 (80%)	15	6	0	4	1	1	2	2	7	1	2	6	6	1	1	1	0	2

表4 野菜, 果実, その他の食品中の

試料	数	BHC					DDT					ドリリン				クロル ベンジ レート
		α -	β -	γ -	δ -	総	OP-	PP-	PP- DDD	PP- DDE	総	アルド リン	ディル ドリリン	総 ドリリン	エン ドリリン	
かぼちゃ	3	nd~ 0.005	nd	nd	nd	nd~ 0.005	nd	nd	nd	nd	nd					
なつみかん	1	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
なつみかんの 外果皮	1	0.003	nd	nd	nd	0.003	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
いちご	2	nd	0.002	nd	nd	0.002	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
アスパラガス	2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
未成熟 えんどう	2	nd~ 0.006	nd	nd~ 0.002	nd~ 0.001	nd~ 0.009	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
メロン	3															
ぶどう	2	0.001	nd	nd	nd	0.001	nd	nd	nd	nd~ 0.001	nd~ 0.001	nd	nd	nd	nd	nd
キャベツ	4	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
ばれいしょ	4	nd	nd~ 0.003	nd~ 0.001	nd	nd~ 0.004	nd	nd~ 0.002	nd	nd	nd~ 0.002	nd	nd~ 0.002	nd~ 0.002	nd	
レタス	1	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
とうもろこじ	1	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
しゅんぎく	2															
にんじん	2															
もも	2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
はなやさい	2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
きゅうり	2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
みがん	2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
りんご	2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
かき	2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
たまねぎ	2															
はくさい	2	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
スッポン粉末	1	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.012	0.012	nd	nd	nd	nd	nd
ベーコン	1	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd

残留農薬および重金属検査成績

昭和57年度

ジコ ホール	キャブ タン	カブタ ホール	パラチ オン	EPN	マラチ オン	ダイア ジノン	フェニ トロ チオン	フェン チオン	ジクロ ルボス	フェン トエー ト	ジメト エート	クロル フェン ビンホ ス	ホサ ロン	カルバ リル	As ₂ O ₃	Pb	Sn
			nd			nd	nd			nd							
nd			nd	nd	nd	nd					nd			nd	nd	nd	
nd			nd	nd	nd	nd					nd			nd	nd	nd	
nd~ 0.04			nd	nd	nd	nd					nd				nd	nd	
			nd						nd								
			nd														
			nd			nd~ 0.005											
nd			nd	nd		nd	nd		nd					nd	nd~ 0.02	nd	
		nd	nd	nd	nd	nd						nd		nd~ 0.09			
			nd	nd	nd	nd		nd			nd	nd		nd	nd~ 0.03	nd	
			nd	nd	nd	nd		nd									
			nd														
			nd		nd	nd	nd~ 0.004										
			nd	nd	nd		nd										
nd			nd	nd	nd	nd	nd~ 0.014			nd				nd~ 0.06	nd	nd	
			nd	nd		nd											
	nd		nd	nd	nd	nd	nd								nd	nd	
nd			nd	nd	nd		nd			nd	nd			nd			
nd~ 0.012	0.029 0.043	nd	nd	nd	nd	nd~ 0.017	nd							nd~ 0.14	nd	nd	nd
			nd	nd	nd	nd	nd				nd	nd		nd			
			nd				nd										
			nd	nd	nd	nd								0.05 0.08			
nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd		nd		nd		nd				

(単位ppm, nd:不検出)

(5) 大気検査

大気検査係において市民の健康と生活環境に影響を及ぼすおそれのある大気汚染物質等の実態を把握するため、公害部大気課と協力して調査研究を実施している。

昭和57年度における調査研究（検査業務を含む）として検体数では前年度とほぼ同数であるが、検査件数は2,468件（66％）の増加となった。これはスパイクタイヤによる浮遊粉じんへの影響を究明するため、指標物質として四塩化炭素抽出物質、カルシウム、鉄、有害物質として鉛などの検査を実施したことによるものである。

今後も引き続きスパイクタイヤによる粉じんに関する調査研究を進めるとともに酸性雨などの調査研究を行い、大気浄化の向上に努める。

〔業務報告〕

大気検査係での年度別検査件数及び項目別検査件数は表1、表2のとおりである。

1 環境調査

降下ばいじん（デポジットゲージ法）は、市内3地点において実施した。また、環境調査に係る浮遊粉じん検査は年3回（4、7、1月）市内4地点において、ハイボリュームエアサンプラーによって行い、浮遊粉じん量、ベンゾ（a）ピレン、四塩化炭素抽出物質、金属等について分析を行った。

2 重油中のいおう分測定

大気汚染防止法及び札幌市公害防止条例に基づく燃料規制対象の燃焼施設における重油中のいおう含有量について427検体を測定した。

3 悪臭物質調査

悪臭防止法に基づく悪臭物質、並びに一般生活環境をそこなうおそれのある有機溶剤（ホルムアルデヒド・酢酸-n-ブチル・酢酸エチル・トルエン・キシレン・硫化カルボニル）の分析を行った。

4 スパイクタイヤによる粉じん調査

スパイクタイヤによる粉じん調査として、前年度に引き続き浮遊粉じん調査及び粒度別浮遊粉じん調査を実施し、それらの四塩化炭素抽出物質、カルシウム、アルミニウム、重金属等を分析した。一方、降下ばいじん、路上堆積物、アスファルト混合物、土壌についてもそれらの分析を行い、その結果、路上堆積物がアスファルト舗装が削りとられたものであること、10 μ 以上の浮遊粉じん、1~10 μ mの浮遊粒子状物質にもアスファルト混合物と関係があることがわかった。今後はさらに、一般大気環境における影響の推定調査を行う。

5 有害物質調査

環境庁の委託業務である「非特定重大障害物質発生源等対策調査」の一環として、市内のFRP造型工場、化粧板製造工場の発生源（排出口）とその周辺環境におけるスチレン濃度を測定した。

全国有害物質総点検調査の一環として、市内3カ所におけるホルムアルデヒド、ベンゾ（a）ピレンの検査を行った。

6 自動測定機吸収液の調整

大気汚染観測局（9地点）及び移動測定局（1地点）並びに自動車排ガス測定局（2地点）におけるNO_x、SO_x、自動測定機用吸収液の調整を行った。

表1 年度別大気検査件数

区 分 業 務		検 体 数		検 査 件 数	
		昭和57年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和56年度
環境調査	降下ばいじん	30	32	330	342
	浮遊粉じん（環境汚染調査）	60	60	600	300
いおう酸化物分析		0	14	0	14
重油中のいおう分測定		427	468	427	468
悪臭調査		144	64	427	221
有害物質調査		165	157	165	157
自動記録計吸収液調整		802	807	1,341	1,326
スパイクタイヤによる粉じん調査		403	620	3,905	1,899
総 数		2,031	2,222	7,195	4,727

表 2 項目別大気検査件数一覧表

昭和57年度

区分 業務	検体数		検査項目	検査件数		区分 業務	検体数		検査項目	検査件数	
	依頼検査	独自検査		依頼検査	独自検査		依頼検査	独自検査			
環境調査	降下ばいじん	0	総量	30	0	浮遊粉じん	0	0	浮遊粉じん量	175	105
			不溶性成分	90	0				鉛	40	240
	溶解性成分	210	0	鉄	40		240				
	(計)	(330)	(0)	アルミニウム	175		105				
	浮遊粉じん量	60	0	カルシウム	40		240				
	鉛	60	0	亜鉛	135		145				
	鉄	60	0	マンガン	0		280				
	四塩化炭素抽出物質	60	0	銅	0		280				
	ペンゾ(a)ピレン	60	0	チタン	0		102				
	亜鉛	0	60	ニッケル	0		102				
	マンガン	0	60	四塩化炭素抽出物質	40		65				
	銅	0	60	(計)	(645)		(1,904)				
	チタン	0	60	鉛	3		3				
	ニッケル	0	60	鉄	3		3				
(計)	(300)	(300)	アルミニウム	3	3						
重油中のい	0	0	いおう分測定	427	0	降下ばいじん	0	0	カルシウム	3	3
			(計)	(427)	(0)				タングステン	3	3
			アルミニウム	16	0				四塩化炭素抽出物質	3	3
			(計)	79	0				(計)	(18)	(18)
			硫化水素	79	0				鉛	12	60

(6) 水質検査

水質検査係において、公共用水域の定点観測及び工場排水、鉱山排水の定期監視による水質検査等を実施している。

本市の河川は、豊平川水域、茨戸川水域及び新川水域に大別されるが、河川汚濁の主たるものは生活関連排水による有機性汚濁である。従って、水域の富栄養塩、陰イオン界面活性剤等についても調査を実施している。また、生物学的な水質評価指針としての水生生物調査も本格的に手がけており、今後は底質調査、有害化学物質調査も含め長期的視野からの調査研究についても実施していく考えである。

〔業務報告〕

昭和57年度中の総検体数は1,800件、総検査項目数は11,687件であり、それぞれ前年度より18.5%、72%増加している。

依頼先ごとの検査内容は次のとおりである。

(1) 行政依頼検査

行政依頼検査は主として公害部からのものであるが、この検体数は1,471件で総検体数の82%に相当し、検査項目数では10,304件で88%を占めている。

ア. 河川水質調査

豊平川水域16地点、新川水域6地点及び茨戸川水域5地点の合計27地点の環境水質監視に伴う水質検査が主なものである。検査項目としては、浮遊物質、生物化学的酸素要求量、大腸菌群数などの生活環境項目、重金属その他の有害物質などの健康項目のほかに、窒素、りん、LAS（直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム）などの項目についても検査を実施した。

また、今年度は西友ストアー食中毒事件に関連し、公衆衛生部からの依頼により排水路水について41検体、347項目の検査も実施した。

イ. 鉱山排水水質検査

鉱山排水の定点観測による水質検査は、豊羽鉱山関連の5地点、手稲鉱山関連の3地点で91検体、566項目について実施した。

ウ. 工場排水水質検査

水質汚濁防止法に基づく特定事業場の監視による水質検査及び「開発行為等における汚水放流の指導要綱」対象事業場からの放流水検査等で、総検体数607件、総項目数3,414件を実施した。

エ. 苦情処理及びその他調査に伴う水質検査

工場、事業場等からの排水に係る苦情及び魚類へい死の原因追跡調査が主なものである。また、西友ストアー食中毒事件関連の土壌浸出水検査も実施した。

(2) 事業所依頼調査

事業所依頼の総検体数は158件で全体の9%であり、その検査項目総数は273件であった。

ア. 地下水検査

各種土木工事に伴い下水道へ排出する地下水のpH検査が主であり、65検体の依頼があった。

イ. 下水排水検査

事業所排水を下水道へ排出する際の水質検査である。検体数は93件で、検査項目数は206件であった。

(3) その他の調査

衛生研究所独自の調査研究活動で取り扱った検体数は171件、項目数は1,110件でそれぞれ全体の10%、11%となっている。

ア. 水生生物調査

豊平川上中流域3地点において各5回、底生動物及び付着藻類調査を実施した。

イ. 衛生研究所排水調査

衛生研究所の排水について毎月、pH、カドミウム、シアン、総水銀等の検査を実施した。

ウ. その他

総窒素に係る公定法の変更に伴う分析法の比較検討を実施した。

水 質 検 査 実 施

依頼先	項目 検体名	P	D	B	C	浮遊物 質量	大腸菌数		n-ヘキサン抽出物	カドミウム	シアン	有機りん	鉛	クロム(六価)	ひ素	総水銀	アルキル水銀	P C B	フェノール類	銅
		H	O	O	O		最 確 数	デ ソ 法												
行政機関	河川水	678	577	650	497	639	529		174	176	193	35	169	167	181	167	35	35	35	42
	鉱山排水	91	2	2						71	33		71		34					73
	工場排水	600	1	454		600		441	250	128	84	14	111	97	64	53	1	33	18	84
	苦情その他	45	10	30	16	30	58		1		22				10					10
	小計	1,414	590	1,136	513	1,269	587	441	425	375	332	49	351	264	289	220	36	68	63	199
事業所	地下水他	64		1		1			1											
	排水	62		3	1	2	2	1	11	47						76				
	小計	126		4	1	3	2	2	11	47						76				
衛生研究所	河川水	2	2	2	2	2	2													
	排水	24								24	24	2	24	6		18				14
	水生生物		24																	
	その他	5	5	5	5	5	5													
	小計	31	31	7	7	7	7			24	24	2	24	6		18				14
昭和57年度総計		1,571	621	1,147	521	1,279	594	443	427	410	403	51	375	270	289	314	36	68	63	213
昭和56年度総計		1,346	497	915	543	1,015	469	373	425	460	418	328	459	316	326	389	47	129	55	178

件 数 一 覧 表

亜鉛	溶解性鉄	溶解性マンガン	総クロム	ふっ素	陰イオン界面活性剤	総窒素	総ケルダール窒素	総りん	亜硝酸性窒素	硝酸性窒素	アンモニア性窒素	水生生物		L A S	その他	昭和57年度		昭和56年度	
												フィールド	同定			検体数	項目数	検体数	項目数
45	40	45	35	35	167	177	177	177	9	9	25	82		28	17	678	6,047	500	5,600
77	31	75													6	91	566	96	518
110	67	45	5	14	25	35	35	35	5	5						607	3,414	489	3,122
									8	8	13				16	95	277	169	601
232	138	165	40	49	192	212	212	212	22	22	38	82		28	39	1,471	10,304	1,254	9,841
																65	67	140	140
															1	93	206	7	7
															1	158	273	147	147
						60						4				12	76	15	145
14	14	14	6			33										30	217	24	120
												264	466		23	124	777	31	216
												10				5	40	48	430
14	14	14	6			93						278	466		23	171	1,110	118	911
246	152	179	46	49	192	305	212	212	22	22	38	360	466	28	63	1,800	11,687		
237	146	133	67	78	264	234	259	254				75	141	40	283			1,519	10,899

年間の動向

(1) 主な会議，研究会，学会等への出席

年月	会議等の名称	開催地	出席者
57 5	全国公害研協議会北海道・東北支部総会	盛岡市	市川
57 5	新生児スクリーニング国際会議	東京都	高杉
57 5	日本食品衛生学会第43回学術講演会	東京都	白石(由), 小塚
57 6	地方公共団体公害試験研究機関等所長会議	東京都	市川
57 6	有害物質全国総点検調査ブロック会議	仙台市	坪井
57 6	第2種放射線取扱主任者免状に係る講習	茨城県 城海村	浦嶋
57 6	全国地方衛生研究所長会議	東京都	林
57 6	新生児スクリーニング国際会議	東京都	高杉
57 7	厚生省食品添加物1日摂取量研究班打合せ会議	東京都	小塚
57 7	第3回衛生微生物技術協議会研究会	仙台市	熊谷
57 7	「小児期のマス・スクリーニングのシステム化に関する研究」研究班会議	東京都	高杉
57 7	酵素免疫測定法によるクレチン症スクリーニング研究会	東京都	福士
57 8	<p>新生児スクリーニング国際会議</p> <p>※「Screening for congenital hypothyroidism by combined measurement of TSH and T_4」(福士)</p> <p>(クレチン症マス・スクリーニングにおけるTSH及びT_4測定の有効性について報告した。)</p> <p>※「A pilot study on screening for congenital adrenal hyperplasia (CAH) due to 21-hydroxylase deficiency by enzyme immunoassay」(福士)</p> <p>(酵素免疫測定法による副腎皮質過形成の基礎的検討について報告した。)</p> <p>※「Thyroid hormone levels on low birth weight infants in mass screening for congenital</p>	東京都	高杉, 福士 水嶋, 荒井

年月	会議等の名称	開催地	出席者
57 8	<p>hypothyroidism」(荒井)</p> <p>total T₄ TBG, T₄/TBG index それぞれについて生下時体重, 採血日数との関係 を調べ, 低出生体重児の採血時期の検討について 報告した。</p> <p>※「Mass screening for congenital hypothyroidism by enzymeimmunoassay for thyroid stimulating hormone」(水嶋)</p> <p>クレチン症マス・スクリーニングのためのTBH 酵素免疫測定法(EIA)による測定法の検討と 実際のスクリーニング実施状況について報告した。</p>	東京都	高杉, 福士 水嶋, 荒井
57 8	第1回自動車用タイヤによる粉じん等対策調査検討会 (環境庁ワーキング・グループ)	東京都	高田
57 8	国立公害研修所分析研修	所沢市	小林
57 8	第2回自動車用タイヤによる粉じん等対策調査検討会 (環境庁ワーキング・グループ)	東京都	高田
57 9	「細菌検査室のシステム化の考え方と進め方」セミナー	東京都	横田
57 9	第1種放射線取扱主任者講習	東京都	荒井
57 9	地方衛生研究所全国協議会・北海道東北新潟支部総会	新潟市	林, 佐藤(勇)
57 9	第19回全国衛生化学技術協議会	京都市	市川, 白石(由)
57 9	第48回北海道臨床衛生検査学会	釧路市	白石(圭)
57 9	<p>第8回東北・北海道ブロック公害研研究連絡会議</p> <p>※「悪臭分析の方法について」(高田)</p> <p>悪臭苦情発生状況と悪臭防止法に基づく規制基準 との関連から, 官能試験法の必要性について報告 した。</p> <p>※「マイクロコンピュータによる水質検査データの 統計処理について」(山下(悟))</p> <p>マイコンを使用して, 河川水の過去数年間におけ</p>	札幌市	高田, 山下(悟) 大森, 鈴木(寿)

年月	会議等の名称	開催地	出席者
57 9	<p>るデータを記憶させ、各種の統計処理をするためのプログラムを開発した。</p> <p>※「水生生物による河川水質の評価について」（大森）</p> <p>〔豊平川の底生動物調査結果から、優先種法、生物指数、汚濁指数により水質汚濁の評価を試みた。〕</p> <p>※「時系列解析による河川水質変動について」（鈴木(寿)）</p> <p>〔マイコンにファイル化された過去5年間の環境監視データを用いて、時系列解析を行い、札幌市河川の水質変動特性を検討した。〕</p>	札幌市	高田, 山下(悟) 大森, 鈴木(寿)
57 10	非特定重大障害物質発生源等対策調査打合せ	東京都	坪井
57 10	第33回地方衛生研究所全国協議会総会	福岡市	青木, 有原
57 10	<p>第41回日本公衆衛生学会</p> <p>※「札幌市における新生児マス・スクリーニングの実施状況について」（水嶋）</p> <p>〔昭和52年4月から昭和57年5月までの先天性代謝異常5種目、クレチン症、TBG欠損症、先天性副腎皮質過形成のマス・スクリーニングの実施状況について報告した。〕</p> <p>※「血液ろ紙による低出生体重児のマス・スクリーニングにおける採血時期の検討」（荒井）</p> <p>〔低出生体重児の甲状腺ホルモン濃度を正常児と比較し、採血時期の検討を行った。〕</p> <p>※「札幌市における神経芽細胞腫マス・スクリーニングについて」（佐藤(泰)）</p> <p>〔昭和56年4月から開始した神経芽細胞腫マス・スクリーニングについて、その方法及び昭和57年5月末までのスクリーニング結果と発見症例について報告した。〕</p>	福岡市	青木他5名

年月	会議等の名称	開催地	出席者
57 10	<p>※「札幌市における学校給食中の無機質含有量について」 (西野)</p> <p>〔札幌市内の小学校の学校給食50品目13食分について11項目の無機質を分析し、1食当たりの摂取量を算出した。〕</p> <p>※「札幌市における一般住居の室内環境について」 (浦嶋)</p> <p>〔積雪寒冷地としての札幌市における冬期間の一般住居の室内環境について、温熱、汚染条件の実態を総合的に調査した。〕</p>	福岡市	青木他5名
57 11	<p>第23回大気汚染学会</p> <p>※「札幌市におけるスパイクタイヤによる道路粉じんの調査について」(高田)</p> <p>〔浮遊粉じん及び道路堆積物中の指標物質を解析した結果から、10μm以上の粉じんに対する道路粉じんへの影響について報告した。〕</p>	宮崎市	市川, 高田
57 11	食品衛生微生物研究会	大阪市	山口(温)
57 11	指定都市衛生研究所長会議	京都市	林, 菅原, 田口
57 11	小児悪性腫瘍研究会	名古屋市	高杉
57 11	第2回(社)日本水質汚濁研究セミナー 「湖沼環境調査に関するセミナー」	東京都	中島
57 11	全国公害研協議会秋季総会	宮崎市	市川
57 11	<p>第34回北海道公衆衛生学会</p> <p>※「先天性代謝異常マス・スクリーニングにおける低出生児の採血時期の検討」(浅野)</p> <p>〔低出生体重児と正常児のアミノ酸含有量について、ガスリー法により比較し採血時期の検討を行った。〕</p>	札幌市	高杉他9名

年月	会議等の名称	開催地	出席者
57 11	<p>※「札幌市における先天性副腎皮質過形成のマス・スクリーニングについて」（福士）</p> <p>〔先天性副腎皮質過形成のマス・スクリーニングの重要性について報告した。〕</p> <p>※「札幌市における神経芽細胞腫マス・スクリーニングについて」（佐藤（泰））</p> <p>〔札幌市で実施している神経芽細胞腫マス・スクリーニングのシステム及び方法と、昭和57年7月までの結果並びに発見した症例について報告した。〕</p> <p>※「札幌市における下水中のNAGビブリオの検出状況について」（白石（圭））</p> <p>〔昭和53年から下水処理場流入水等のコレラサーベイランスを実施し、NAGビブリオが季節に関係なく検出され、4年間平均検出率42.6%を示す等の結果を得た。〕</p> <p>※「羊毛防虫加工剤DTTBの含有量実態調査」（大谷）</p> <p>〔新たに法規制を受けたDTTBについて、公定法によって、羊毛製品（毛糸、服地、カーペット見本など）中の含有量を調査した。〕</p> <p>※「高速液体クロマトグラフィーによる食品中のビタミンAとビタミンEの同時定量法について」（吉田（俊））</p> <p>〔HPLCによる食品中のビタミンAとビタミンEの同時定量法を検討した。〕</p> <p>※「食品中の天然着色料の分析について」（花井）</p> <p>〔ポリアミドバッチ法による水溶性天然着色料とTLC, HPLCによる油溶性天然着色料の分析法を検討した。〕</p> <p>※「札幌市内三工場におけるトルエン発生源調査について」（水木）</p>	札幌市	高杉他9名

年月	会議等の名称	開催地	出席者
57 11	<p>〔トルエン排出状況の実態を把握するため、市内三工場を対象として、トルエン排水口、敷地境界、周辺環境におけるトルエン濃度について報告した。〕</p> <p>※「濃度相関マトリックス法による札幌市内河川底質の検討」（小林）</p> <p>〔札幌市内河川底質の分析結果を表題の方法で解析し、底質成分のバックグラウンド値を求めると共に、調査地点間の関連性を検討した。〕</p>	札幌市	高杉他9名
57 11	<p>第9回環境保全・公害防止研究発表会</p> <p>※「濃度相関マトリックス法による札幌市内河川底地の検討」（湯浅）</p> <p>〔表記の方法により河川底質分析結果を解析し、調査地点間の類似性を検討するとともに、底質汚染指標としての対照値を算出した。〕</p> <p>※「新川水域の水質変動について」（鈴木(寿)）</p> <p>〔新川水域の水質変動を把握するため、コレログラム解析・調和解析等を行い、長期傾向変動・周期変動を明らかにした。〕</p>	東京都	市川他2名
57 12	EIAによるクレチン症の研究会議	東京都	高杉, 福士
57 12	昭和57年度食品化学特殊技術講習会	東京都	平田
58. 1	電子顕微鏡研修会	勝田市	熊谷, 山口(温) 中島
58. 2	第3回自動車用タイヤによる粉じん等対策調査検討会	東京都	高田
58. 2	慢性甲状腺機能障害の疫学と予防に関する研究	東京都	高杉, 福士
58. 2	電子顕微鏡研修会	勝田市	横田, 吉田(靖)
58. 3	環境測定分析総一精度管理調査結果検討ブロック会議	秋田市	鈴木(寿)
58. 3	小児期のマス・スクリーニングのシステム化に関する研究	東京都	高杉

年月	会議等の名称	開催地	出席者
58. 3	<p>第10回代謝異常スクリーニング研究会</p> <p>※「酵素免疫測定法を用いたクレチン症スクリーニングの結果」</p> <p>※「TSH, T₄ 測定によるクレチン症マス・スクリーニングのカットオフ値について」(水嶋)</p> <p>〔クレチン症マス・スクリーニングにおける測定法でTSH, T₄ をそれぞれのカットオフ値について検討した結果を報告した。〕</p> <p>※「酵素免疫測定法による先天性副腎皮質過形成のマス・スクリーニング」(福士)</p> <p>〔先天性副腎皮質過形成マス・スクリーニングの方 法論及びその重要性について報告した。〕</p> <p>※「クレチン症マス・スクリーニングにおける低出生体重児の甲状腺ホルモンレベル」(福士)</p> <p>〔クレチン症マス・スクリーニングにおける低出生 体重児の適切な採血時期の検討を行った。〕</p>	仙台市	高杉, 佐藤(泰) 浅野他2名
58. 3	環境庁委託業務スチレン発生源等対策調査結果報告	東京都	水木
58. 3	食品添加物一日総摂取量調査研究結果報告会	宝塚市	白石(由)
58. 3	家庭用品安全対策行政担当係長会議	東京都	大谷

※は、発表演題名であり、()内にその要旨を示す。

(2) 実習指導

年月	グループの名称・内容等	担当者
57. 7	北海道大学医学部学生7名「札幌市河川の水質検査」	市川他
57. 10 ~11	北海道教育大学札幌分校養護教育学科学生48名「食品分析実習」	青木他